NEWS 宮崎東 133号

独立行政法人 国立病院機構 宮崎東病院／広報誌

2021.5

国立病院機構の理念

私たち国立病院機構は、国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために、たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに、患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。

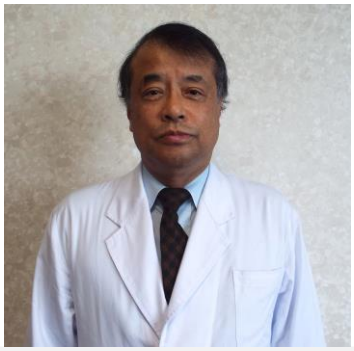
目　次

1．巻頭言
2．令和３年度　開放型登録医療機関紹介
3．コロナウイルスワクチンの予防接種がはじまりました
4．新任職員あいさつ
5．編集後記

宮崎東病院の基本理念

「主役は病める人」をモットーとして患者さんの人権を尊重し、良質かつ高水準の医療を提供します。

巻　頭　言　　春から初夏にかけて



院長
塩屋　敬一

今年は春が待ち遠しかった。コロナ禍の中、暖かくなると何か変わってくるかも知れないと期待していた。しかし今年は春分が過ぎても寒々とし、風ばかり強かった。暖かくなったのは５月初旬頃からである。

病院では３月～4 月にかけ全職員を対象として Covid-19 ワクチン接種が行われた。第２グループの第２回め接種が４月３日で、これで病院の 87％程が接種を完了した。丁度４月３日（土）は近在の「小戸の橋」の渡り初めの日だった。７年の歳月をかけてかけ直した橋の完成であり、宮崎市民には大変嬉しい日であったが当院にも嬉しい日となったわけである。5 月 19 日には任意接種 90％以上を達成する見込みである。

その後当院では周辺の病医院のスタッフの皆様に接種をする役割が与えられた。日頃のご無沙汰を解消する大事な交流の場になったものと思っている。

そして５月 25 日からは患者さんへの接種が始まる。規模が大きくなるので、５月７日には会場となる大会議室でワクチン実施シミュレーションとアナフィラキシー対応研修を行った。アナフィラキシー対応は医療の基本中の基本とは言え、多人数の中、迅速に動けるかはまた別の課題である。勿論３密を避けての実施だったがワクチン接種済みという時期だったからこそ出来たと言える。なんと職員全員を対象とする訓練となり、医局も大勢参加された。

やや暖かくなりそうな予感のする５月７日だったが、数十人が集まることができ、部屋の中は熱気があった。表情も明るかった。講師の一挙手一投足に沸いた。皆がキビキビと動いて椅子の移動さえもスムースだった。久しぶりに見る光景だった。短い時間内で説明と実技まで行うことができた。

春には光が差し、鳥がさえずりはじめ、花が咲く。去年の冬の無残な枯れ枝は落ちて新たな新芽が吹き出てくる。

今年こそコロナの冬からの脱却を果たすべく、当院はワクチン接種を進めて行く。まずは各専門科のかかりつけ患者さんへの責任がある。人数も多く先は遠い。しかし今や季節は変わり、活動の夏が身近である。必ずや成果をあげ、この地域の復興の基礎を作りたい。裏方として努力してくれている事務を始め、全職員と共にその日を実現したい。

令和３年度 開放型登録医療機関紹介

福元医院

院長　福元 廣次 先生

〒880-0841
宮崎市吉村町北原 1446
TEL：0985-28-5001　FAX：0985-28-5020
標榜診療科：内科、消化器内科（胃腸内科）
循環器内科、外科
リハビリテーション科

宮崎東病院の皆様には、平素より呼吸器疾患をはじめ大変お世話になり、心よりお礼申し上げます。当院は、1995年に宮崎市吉村町（青葉町交差点の東）に開院し25年となります。宮崎駅とイオンショッピングセンターの中間位に位置します。診療所前の道路は平日の夕方や土日の午後は、イオンから帰る多くの車で渋滞するにぎやかな通りです。

私は宮崎医科大学の3期生で、宮崎東病院では小児科の井上忍先生と同期です。1982年に大学卒業後は宮崎大学病院第2外科に入局し、呼吸器外科の枝川正雄先生、臼間康博先生とは大学病院勤務時は一緒に研鑽しました。また大学院時代は神経内科の杉本精一郎先生と同じ研究室に在籍し、その当時医療にも普及しつつあったパソコンを教えてもらいました。開業する前は、心臓血管外科の診療に従事していましたので、開業してその領域の患者さんを診ることは多いのですが、病院勤務を離れ25年も経ちますと専門性が薄れてきました。患者さんの高齢化に伴い、生活習慣病を主とした慢性疾患の診療が徐々に中心となっています。心臓疾患の方を定期的に胸部レントゲンでフォローしていますと、新たな肺陰影の出現に気づくことがあり、その様な時には宮崎東病院を頼っております。宮崎東病院の旧病棟時代に、紹介した結核患者さんに面会の折、長い廊下を通って病棟まで行ったことも思い出されます。

開業してからは専門医の学会へ参加することが少なくなり、最新の医学情報は宮崎県内の各分野の第一線で活躍されておられる専門医の先生方の講演を聞いて学んでいます。そして何よりも勉強になるのは、診断や治療に迷い悩む時に専門医の先生方に紹介し、その精査・治療された結果やご意見がとても参考になります。

先生方をはじめ職員の皆様には教えていただくことが多く、感謝しております。今後ともご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

※開放型登録医制度

宮崎東病院では平成16年9月より開放型病床を設置しております。
開放型病床とは、かかりつけ医師（開業医）と宮崎東病院医師（主治医）とが連携して、入院診療を行うというものです。患者様にとっては、かかりつけ医師との関係がとぎれることがないため、入退院への不安が軽減されます。現在、104医療機関の先生方にご登録いただいております。

コロナウイルスワクチン予防接種が始まりました

内科医長
谷岩　公博

今春より当院でもワクチン接種が始まり、当座は医療従事者優先ということで当院職員より開始されました。接種率は 89.8%で、自ら接種を希望しないもの、アレルギーのあるもの様々でしょうが、接種率の解釈についてはいろいろ議論のあるところでしょう。

副反応については、打った部位の痛み、倦怠感や疲労感、頭痛、筋肉痛、寒気、発熱、打った部位の腫脹、関節痛、吐き気などが公にされているようですが、全くの無症状という被接種者は、当院職員を見る限りほとんどいなかったのではないかと思います。特に 2 回目の接種時の症状は思いのほか強かったように思います。ちなみにアナフィラキシーを引き起こしたケースはありませんでした。

ところで、先頃、さんま氏が「わくちんはうたない」と言って話題になっていますが、接種をするかどうかの判断はあくまでも本人に任せるべきという原則は忘れてはならないと思います。接種しないと判断した人間を社会悪とする芽が、報道を見ているとちらほらと見えるような気がします。とはいえ、ワクチンそのものは公益性に大きく貢献するのは事実ですので接種を推奨するのは当然です。患者さんにはこのような状況を踏まえたうえで判断してもらい、接種を受けるように勧めています。

新任職員あいさつ

小児科医師
宇藤山 麻衣子

2021 年 4 月に小児科に赴任しました　宇藤山麻衣子　と申します。高校まで宮崎市（清武町）で育ち、大分大学医学部を卒業後、宮崎に戻りました。初期研修後 2008 年に宮崎大学小児科に入局しました。大学や関連病院で小児科全般を経験した後に、小児内分泌・代謝分野を専攻し、診療を行ってまいりました。東病院では先生方やスタッフの方々の温かい雰囲気の中で仕事をさせていただいています。さらに研鑽を積んで、小児医療に貢献していければと思います。

家庭では、１歳７か月の娘の子育てに奮闘中です。小児科医とはいえ、子育ては何もかもが初めてで、迷うことばかりの毎日ですが、１日１日成長してく子どもの姿をみられるのは、大変楽しいものです。子育ての経験も、診療に活かせるといいなと思っています。これからどうぞよろしくお願いいたします。

呼吸器内科
瀬戸口 健介

令和３年４月より呼吸器内科に赴任しました瀬戸口健介と申します。出身は宮崎市で、宮崎大学医学部を卒業後、県内で研修を行い、これまで４年間大学病院で勤務してきました。当院に赴任して約２ヶ月が経ちますが、新型コロナウイルス感染症をはじめ、急性期から慢性期まで幅広い呼吸器疾患の診療を経験させて頂き、充実した毎日を送っています。新しい環境に戸惑うことも多いですが、いつも先生方やスタッフの皆様の温かさに支えられています。まだまだ未熟でご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、これから精一杯頑張っていきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

看護部長
石山 いずみ

4 月1 日付で看護部長として着任致しました石山いずみと申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は大分県別府市出身で、これまで大分県及び福岡県での勤務を経験し、このたび宮崎県へ参りました。宮崎県には、小学生時代の修学旅行や社会人になってからの家族旅行、看護学生対象の就職説明会などで訪れたことがあり、環境も人もあたたかいという印象でした。そのような印象がある宮崎の地で勤務できることを嬉しく思っております。嬉しさに浸りながらも、宮崎東病院が長きにわたって築き上げてきた歴史と尽力されてきた先任者の功績、それを引き継いでいく重責に身の引き締まる思いです。

宮崎東病院は「『主役は病める人』をモットーとして、患者さんの人権を尊重し、良質かつ高水準の医療を提供します」の理念のもと、地域に愛され、地域になくてはならない存在感ある病院作りに努めています。看護部は「常に病める人のかけがえのない命と人間性を尊重し、温かい心で質の高い看護を提供します」を理念に掲げています。これは、患者さんとご家族の立場にたって、命と人間性を尊重することに心掛けながら、安全で心のこもった看護を提供することを意味しております。当院は、宮崎県の重症難病医療ネットワーク基幹拠点病院であることからも、理念に沿った看護実践となるよう、常に努めたいと思います。これらを実践するには、看護師個々の自己研鑽が重要であるとともに、教育体制の充実も求められます。国立病院機構には、「Actyナース」という共通の看護職員能力開発プログラムがあります。このプログラムを基盤に宮崎東病院に必要な看護師育成に力を入れています。当院では、PPPSB体制　「P：新人看護師Pp：2～3年目（一番身近な存在）P：4年目以上（憧れの先輩）S：5～15年目未満（見守り導く存在）　B：15年目以上（モデル的存在）」をとり、「みんなで育てよう」を合言葉にチーム全体で後輩を育み、お互いに学び合う姿勢を大切にしています。

現在、働き方改革や地域医療構想などに加え、新型コロナウイルスへの対応など苦境に直面しています。厳しい状況下ではありますが、チームで力をあわせて苦境を乗り越えていきたいと思います。

宮崎東病院はもとより、この地域の一員として、役割を果たしていけるように微力ながら努めてまいります。ご指導、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

医療従事者へのコロナワクチンの接種が始まり、ようやくコロナ終息かと期待して迎えた新年度でしたが、すぐにやってきた第４波の兆し。悲しい気持ちにもなりますが、春の草花や木々の花（ルピナス、ハナミズキ、ふじ、すみれ、名前がわからない小さな草花など）が咲きほこっている宮崎東病院の環境に日々癒されています。（編集委員Ｎ）